

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第30号 発行日2005年7月20日

Contents

福岡で観光フォーラム、第4回通常総会	_____	1
Jリーグ鈴木チェアマン「サッカーと観光」	_____	2
霞が関 荒井参院議員語る	_____	3
観光人国記 呉市長「五月荘女将」	_____	4
「中国人に伝えよう」(丹羽顧問)、後藤氏のこと	_____	5
日豪和解を探る一豪教授、立教支部通信	_____	6
テニスを楽しむ、COLUMN	_____	7
お得な旅情報、ドイツワイン	_____	8
NPOからの提案「観光と税金」、イタリア通信	_____	9
海の日に思う、会員名簿	_____	10



世界最大の戦艦「大和」10分の一縮尺。今年4月オープン of 呉市・大和ミュージアムの目玉で、多くの客を集めている。60年前、沖縄出撃時に九州沖で多数の米軍機により撃沈。(呉市提供)

巻頭言

福岡でフォーラム開催、北海道支部設立など活発化 17年度総会での予算、支部拡大など承認をうけ 総会後のJリーグ鈴木チェアマンの講演が大好評

「大九州圏観光フォーラム2005」

JN協会は、九州観光推進機構と共催で9月21日、福岡市の西鉄グランドホテルにおいて、九州の観光振興、都市防災、九州新幹線など盛り沢山のテーマで標記のフォーラムを開く。

基調講演は、渡辺修・日本貿易振興機構理事長が「九州の経済活性化と観光について」と題して行う。続いて、九大大学院の川瀬博教授が「九州の都市防災について」、JR九州の石原進社長らが「九州新幹線の早期全線開業について」、末吉興一・北九州市長が「北九州空港の開港について」講演する。講演終了後は、同ホテルで立食形式の懇談会がある。会費は5000円。

「北海道支部の設立」へ

JN協会7番目の支部として、11月22日(火)に札幌市で「北海道支部」の設立総会を開く予定。

10年後とされる「北海道新幹線」の新青森-新函館間の開業により、東京-新函館間は3時間40分の直通運転が実現、その経済波及効果は4901億円と試算されている。また、ユネスコによる知床半島の世界自然遺産登録も、北海道にとって朗報。

こうした状況は、北海道の経済再生や観光振興に大きな意味を持つものであり、設立総会には北海道知事、北海道経済連合会会長、札幌市長ら各界のトップが参加する見通し。

記念講演会も、総会後に実施する予定である。支部は、四国、東北にも、広げていく方針。



JN協会第4回通常会員総会開く

NPO法人「JAPAN NOW観光情報協会」の第4回通常会員総会は、5月24日東京のホテルKKRで会員等約150人が集まり開かれ、発足5年目に向かっての平成17年度予算、事業計画等を決めた。総会のあと、サッカーJリーグの鈴木昌チェアマンが「サッカーと観光立国」と題し講演。(2ページに要旨)

総会の冒頭挨拶に立った松尾道彦JN協会理事長は「協会は5年目に入ったが、あらゆる業界が会員になっており手作りの観光交流を続けている。最近、中国との間がギクシャクしているが、観光面では中国全土からのビザなし訪日の実現に向かっている。台湾、韓国も同様である。国が目指す外国人客1000万人の訪日実現は可能と思う。この協会も微力ではあるが、お役に立ちたいと考えている」と述べた。

第4回総会では、17年度予算、事業計画の決定のほか、理事枠を30人から35人に広げることも了承を得た。これに基づいて、新理事に神戸支部長の岩田弘三、澤田利彦の両氏を選任、立教支部長・理事に本田雄三氏に代わって田久保万里夫氏を選んだ。

観光推進にも役立つサッカー

スポーツを楽しむ心を育てる

Jリーグチェアマン 鈴木昌 氏

『サッカーと観光立国』というテーマで話を、といわれたときには「待てよ」としばし思った。だけど、よく考えるとサッカーは観光推進に大いに役立っている。金持ちの観光旅行とは違うが、万というサポーターが行き来する。温泉に入って帰る人もいる。いまJリーグには全国各地で30チームあり、ファンの移動は活発だ。特別列車を仕立てるケースも出ている。

『百年構想』進める

いまJリーグは『百年構想』なるものを進めている。単にサッカーを盛んにしようというのではなく、全国津々浦々に子ども達がスポーツを楽しめる地域コミュニティーを作ろうというものである。サッカーと他のスポーツ、例えば野球との違いをみてみよう。野球は個人技に頼る部分が多いが、サッカーは全員が試合時間90分の間、判断し続けなければならない。全員一体感を持って連続プレーをする、いわば、社会の縮図のようなスポーツなのである。だから、Jリーグのチームは、地域に根ざし、例えばバスケットボール、バレーボールなど、他のスポーツも子供たちに教えることを進めている。サッカー精神を活かし、スポーツを楽しむ底辺を広げようという狙いからだ。

日本サッカーは強い？弱い？

「弱かった」と言おう。日本のスポーツは、学校で教えるから、あるいは学校のクラブ活動でやるから弱い。鍛えあげる、根性でいく、あるいは身体能力を競う、というのではなく、その時々判断し動くというスポーツは、これまでのような学校の間では育たない。身体能力だけをいうならアフリカや北欧のサッカーが常に強いはず。だが、それほど体に恵まれないメキシコやブラジルが強いのは、地域に根を下ろし住民と一体になって育ってきたからだ。体格で言うなら、日本人はサッカーに合っている、と思う。

私は、鹿島アントラーズの社長も務めた。はじめは、鹿島の臨海コンビナートに進出した企業の社員と旧住民との間に垣根を感じたが、アントラーズが生まれて4ヶ月目くらいから壁がなくなっていくのを感じた。旧住民からは「東京に就職した子が、試合の度に帰ってくる」と喜ばれ、タテ・ヨコのつながりが出来ていった。

「弱かった」と言ったが、いまは相当に強くなったと言える。ジーコ日本代表チーム監督は、これを「簡単には負けないチームになった」と表現している。ただ、世界のトップレベルに達するには、あと



10年はかかると思う。選手のレベルは確かに上がっているが、ハングリー精神に欠ける嫌いがある。

観光とサッカー

全国区のファンを持つ野球に比べ、サッカーは地方区とも言う。それは地域と一帯になれる、いや一体になってこそそのスポーツだからだ。2週間に一回地元で試合がある日は、まさにお祭りであり、断続的にお祭りを続けているようなものだ。それが地域住民の意識を変えていく。生活ぶりを変えていく。

いま、Jリーグへの参加希望都市が増えている。静岡、新潟、大分、仙台に続け、ということで、40チーム（都市）になる日も近いだろう。まさにサッカー“立市”を目指しているのであり、それは“観光立県（市）”にもつながる。

（この講演のあと、日本代表はバーレーン、北朝鮮を連破して、来年ドイツで開かれるワールドカップ出場が決まった。健闘を祈りたい）文責・加納

ワイン、緑茶、映画券の寄贈

今回は総会後の懇親会を取りやめたが、数十本のドイツワインで、講演会後に鈴木チェアマンを囲んで懇談の輪が出来た。このワインはドイツ年である今年を記念して、ドイツワイン基金からの寄贈。

このほか、ネスレジャパングループから缶入り緑茶が大量に贈られた。これで3回目。

また、(株)USENからは、6月公開の映画「サハラ」の鑑賞券が、参加者全員に贈られた。

あんな話 こんな話

克服できるぞ！エコノミー症候群

助っ人「足首サポーター」で

空路の長旅でエコノミー症候群にやられる—こんな話から欧米に行くのを嫌がる人がいる。そんな人に強力な助っ人が現れた。イオンドクターの「ファスナー付足首サポーター」が、それ。

足元から忍び寄る冷えは、体に良くないことは周知の事実。と言って、ブーツを履いて旅をする人は、そうは多くない。そこで、この綿製のサポーターが役立つ。素材の綿にしみこませたパウダーが体温によって遠赤外線を発生させ、温めてくれる仕掛け。ファスナー付なので、ズボンをはいたままで着脱できるところがミソだ。旅だけではない、観劇でもOK。またホテル、旅館での浴衣姿にも違和感なく利用できる。

値段は一对で6930円。お問い合わせ、お申し込みは(株)ジェイ・エス（03-5432-6262）まで。



東京

電が関発の最新情報

国土交通省・総務省・財務省

荒井正吾参院議員に観光問題を聞く

観光の統計の整備が必要

観光部長時代、関西国際空港が出来た1994年、日本で初めて世界観光大臣会議を大阪で開いた荒井正吾・自民党観光対策特別委員会国際修学旅行対策小委員長に話を聞いた。荒井氏は世界機関である世界観光機構(WTO)をインドネシアと争って大阪に作った実績がある。2001年、参議院議員として政界に進出して観光問題への取り組みが期待されている。(阿部和義)

自民党の議員として観光問題にどう取り組んでいますか？

自民党では観光対策特別委員長の二階俊博さんが中心になって活動をしてきている。私は運輸省で観光部長を4年近く務めたので実務をそれなりに知っている。二階委員長の下で鉛筆をなめなめ参謀役で戦略を練っています。まだ雑巾がけです。



小泉首相のビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)をどう評価しますか？

観光は民間がやる経済活動です。市場によって動いています。この活動にどのように刺激を与えるか難しい問題です。観光市場にどのような刺激を与えるかは知恵が要ります。花火のようにぱっと散るようでは意味がありません。持続していくような刺激を与えるように知恵を出さなくてははいけません。今までのVJCは一過性の活動が多くて成功しているとはいえない。課題が残っている。

どうしてうまくいってないのでしょうか。

それはマーケットの動きを数字で見なくてははいけないのにそれが無い。観光統計が不足している。本来ならば観光部がやらなくてははいけないが、人数が少なく出来ていない。WTOで通用するような統計をとるのは大変な手間が掛かる。数だけで目標に達したといっているが、その内容が問題。日本のどこで泊まってどこに行ったかが分かっていない。

ひと口で観光客といっても、内容は色々です。そうした統計が無いと言う事ですね。

観光客と十把一からげにいうが、セグメント別に見るといろいろです。コンベンションで来たのか、イベントで来たのか、個人で観光に来たのか。海を見たいので来たのか、山なのか。こうした統計が無いのです。こうしたマーケットの情報がなければ、対策が打てない。いまはよいが中国の観光客は日本を通りすぎて、米国やオーストラリアに行ってしまうかもしれません。マーケット・リサーチが必要。

政治家として観光問題をどう扱いますか。

役所は観光問題でもバラバラでやっている。政治家の出番はこうした役所を連携させることです。また地方と中央との連携も政治家のやるべき事でしょう。観光部長の時代より一段と高い立場にたって取り組んでいきます。

観光省を作るべきだと言う声がありますが

省を作ればよいという話でないと思います。観光行政をどのような仕組みでやっていくかをまず決めて、それからの話ではありませんか。省を作ればよいという事ではなくその前にやる必要があります。

外国人観光客に魅力ある観光地域を

国土交通省が「実践プラン」を募集

国土交通省は6月7日、観光立国を進めるため外国人観光客にとって魅力ある観光地域をつくるため「実践プラン」を募集すると発表した。応募締め切りは9月30日。国際競争力のある観光地づくりの実践プランは、単独の市町村または複数の市町村を対象に地域が行う魅力ある景観形成などへの取り組みを国土交通省が支援するもので、計画書などを同省の地方整備局に提出する。

新たに豪州・カナダ・タイを重点市場に

訪日外国人は614万人 観光白書で強調

国土交通省は6月14日、平成16年度の観光白書を発表した。それによると昨年、日本を訪れた外国人旅行者は614万人で、初めて600万人台に達した。

国別では7割がアジア地域からで、韓国、台湾、中国がその8割を占めた。しかし、日本の外国人旅行者の受け入れ状況はアジア諸国の中で7位にとどまり、観光立国キャンペーンも国際比較でみると、効果が上がっていない。そこで、平成17年度はこれまでの重点市場である韓国、米国、中国、台湾、英国、ドイツに加えて潜在需要の多い豪州、カナダ、タイなどを新たに重点市場に指定して「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を展開する。

国土交通省が観光統計の整備に着手

日本経団連も整備・充実を提言

国土交通省は、観光統計の整備に着手した。観光企画課で5月から「観光統計の整備に関する検討懇談会」(座長・山内弘隆一橋大教授)を立ち上げ、宿泊統計、観光入り込み客統計、外国人旅行者の統計、消費動向調査について見直す。懇談会の結論をへて観光統計を改善する。

日本経団連(奥田碩会長)は6月21日に「国際観光立国に関する提言」を発表した。この中で「魅力ある国づくりに向けたプラットフォームの構築」の課題を解決する為に観光統計の整備・充実を挙げている。このほか、ビザ発給手続の簡素化・透明化など9の提言をしている。

観・光・人・国・記

『戦艦大和』が呉市観光の主役に

“海色の歴史回廊”へどうぞ - 呉市長



小笠原臣也（おがさわらしんや）氏。呉市出身、呉三津田高、中央大法学部卒、1958年自治省に入り鹿児島県財政課長、松山市助役、自治省選挙部長を経て広島県副知事、1993年11月呉市長当選。現在3期目。

軍港・呉が甦ろうとしている。といっても、再軍備の話では、むろん、ない。観光都市として、である。広島県呉市は、明治22年に海軍鎮守府が置かれ、世界最大の戦艦『大和』の母港として栄えた。第二次世界大戦最中の1943年ごろには、人口では県都・広島を押さえて40万人に達していたという。

4期目を目指している小笠原市長にとって、産業振興で定住者を増やし、観光などによる交流人口を増加させることが、最大の課題の一つ。そんな市長が取り組んだのが、戦艦『大和』の“復元”。十分の一の縮尺だが、2億円を越す建造費は浄財を募って、全く税金は使わなかったそうだ。（ちなみに本物の「大和」の建造費は東海道新幹線建設費に匹敵する、という）

「この『大和』は、今年4月23日に開館した『大和ミュージアム』の目玉ですが、オープン2ヶ月待たずして来場者は30万人を超えました。計画では、年間で40万人を予定していましたので、嬉しい誤算となっています」と、小笠原市長は顔をほころばす。お年寄りや旧海軍関係者が来てくれると踏んでいたが、意外と若い人にも人気があるそうだ。月刊誌『文芸春秋7月号』などで紹介されたことも効いているようだ。今年暮、公開予定の東映映画「男たちの大和」は、反町隆史さんはじめ若手人気俳優が出演している。これも、呉市にとって追い風になりそう。

「ほとんど素通りに近かった観光バスも、連日数十台来るようになり、受け入れ態勢の更なる充実が必要と感じております」。市長には、4期目の課題も残されているようだ。

呉市の人口は最低時には15万人まで落ち込み、“失業都市”というありがたくない異名まで付けられたことがあったそうだが、企業誘致を進め今年3月までに近隣八町と合併したことなどで、26万人になった。しかも、海岸線が300キロメートル、瀬戸内海国立公園の広島県陸地部の4割を占め、観

「予想を上回って健闘している『大和』を突破口に、旧海軍病院などの伝統を受け継ぎ充実している5大医療機関と温暖な気候を生かして老後をゆたかに暮らしていただくことを目指す、さらには波静かな瀬戸内海の海洋施設の充実で子どもたちにも来てもらおう。そんな

海軍さんの“メイ”は102歳

夫婦二人三脚で、がんばる

軍港だった呉市に残る数少ない料亭『五月荘』は、「メイ（5月）」という愛称で海の男たちに親しまれていた。横須賀の「パイン（小松）」などと並んで。

その女将が三代目の井口義子さんである。

明治36年（1903年）創業だから102歳。戦前は海軍さんの店として大変な繁盛振りだったが、戦災に遭うなど戦後は辛酸の極み、その後の社用族全盛時代、そして官官接待自粛、交際費カット、まさに戦後日本の縮図のような浮き沈みを見てきた。だが、どっこい生きている『メイ』である。その秘訣は、明るく活発な義子女将と、土地っ子でカオが広く仕事熱心なご主人・秀一さんとの二人三脚と、多くの地元ファンの支えによる。もともと、義子さんは神戸出身だが、ある日友人に誘われ訪れた呉市で秀一さんに会い、呉っ子になって40年経つ。

「先代、先々代のお話を聞くと夢のようですが私の代になって楽なことはありません。でも結婚披露、仏事など、皆さんが使って下さって、なんとかやっています。主人が市場で新鮮な材料を仕入れ料理を工夫してくれますし、私は和服はほとんど着ないで、走り回ります。料理は、冷凍ものはほとんど使わず瀬戸内海の海の幸中心です」。

この『五月荘』、戦前からの歴史があるだけに「お宝拝見」に出てきそうな品が残っている。戦前、海軍大臣も務めた嶋田繁太郎大将の書も、見もののひとつ。さらには『大和ミュージアム』にも数点を寄贈している。海軍のマークがついた電球とか、日露戦争時の世界地図など、である。

さて、ご主人。「わが街・呉」への思い入れは人一倍強い。筆者（白澤）も、たまたま一緒になった神戸からの観光客ともども、『大和ミュージアム』はじめ、呉市内を案内してもらった。かつての軍港、そしていま海洋交流都市として発展を目指す呉市の歴史、現状に詳しく、まさに呉市案内人。観光振興に一役も二役も買っているようであり、それがまた家業にも役立っているのではないかと、思った次第。（白澤、加納）



中国の友人に日本人の思いを伝えよう 日中間のぎくしゃくを和らげるために一提言

JN協会顧問（前理事長）丹羽 晟

最近、日本と近隣諸国との間がぎくしゃくしている。特に中国との関係が心配である。

そこで、日中両国政府間のやりとりは別として、私たち民間人が日中友好に向けて最大限努力する必要があると考える。



そこでは何ができるのか。我々民間人が出来ることで重要だと思われることを一つ提案したい。それは中国の友人に日本の実情を説明することである。まず、仕事や社交を通じて知り合った内外の中国人の中に、自分に好意を持っているか又は信頼してくれている人を見つけ出す。そして直接面談できなくてもインターネットや電話、手紙などを使って、現在の日中間の状況について、日本人の思いを誠心誠意伝えてみてはどうだろうか。例えば、次のようなことである。

日本人は数千年の歴史を持つ日中両国間の交流を大変大切に考えており、今後ますます両国の親善に努めたいと思っている。したがって、心ある人は国際法まで無視されるような現在の状況を大変憂慮しており、誤解があるのなら、少しでも解消したいと考えている。

日本人は先の大戦中に近隣諸国に多大の被害を与えたことを誠に申し訳なく思っており、政府が関係国に謝罪したのは当然のことと受け止めている。

日本人は今後二度と戦争を起こすまいと考えており、現行の平和憲法を守って、戦後60年間、外国に対して武力を行使したことは一度もない。そして平和の維持に寄与するため、世界の発展途上国に対して世界で1～2を競う多額の経済援助を行ってきており、中国に対しても、今日までに3兆円を超すODA援助を行ってきている。

日本人は過去の歴史を美化するつもりはないし客観的な歴史的事実を隠蔽するつもりもない。問題となっている日本の歴史教科書の検定については、教科書は民間が作成するものであり、言論の自由を保障している現行憲法の許容する範囲内で、政府は客観的事実に基づく検定を必要最小限実施していると理解している。

日中間の歴史認識については、政府間で両国の歴史学者が集まって客観的事実を検証することが合意されているので、日本人はその結論を尊重したいと考えている。そして、中国側もいわゆる愛国教育において同様となることと信じている。

靖国神社にはA級戦犯14人が合祀されているので、その参拝が問題になっているが、本来、靖国神社は、明治維新以降の戦没者約250万人を合祀してい

る民間の宗教施設であり、どこの国にもある戦死者を慰霊するための施設である。

日本人は死者は手厚く葬り、生前の行いの是非を問わずにその人の冥福を祈る習慣を持つ民族である。これは日本民族の伝統的な文化であり、靖国神社参拝もこの習慣に従うものである。また、靖国神社参拝を行うか否かは、憲法上個人の自由意志に委ねられており、国に強制されることは一切ない。

以上のようなことを1人が中国人10人に説明すれば、計算上全中国人に説明することになる。「百聞は一見にしかず」可能なら訪日して確認して欲しいと要望してみてもはどうだろうか。

黒川温泉のドン、後藤氏に会う

秋には、現地視察を計画 杉 行夫

先日、グループダイナミックス研究所が経営する川崎市幸区に出来た「志楽の湯」のレストランが事前公開され、後藤哲也氏の講話があるというので、参加した。後藤哲也氏について良く知っていたわけではないが、温泉博士といわれる松田忠徳氏と共著の「黒川温泉 観光経営講座」（光文社新書）の広告を見、興味を覚えていた。

後藤氏は九州、熊本県阿蘇の黒川温泉のドンといわれ、「新明館」「山みず木」の経営者、そして国土交通省の「観光カリスマ」一期生11人の一人でもある。黒川温泉と言えば、旅行雑誌「じゃらん九州発」の「行ってよかった観光地」調査で1998年以来6年連続1位、2002年に日経新聞が行った「NIKKEIプラス1温泉大賞」でも草津や湯布院をおさえて「大賞」に輝いている。

南武線矢向駅から徒歩5分、マンションに囲まれた「志楽の湯」の左手に、黒を基調とした天井が高い竣工したばかりのレストラン棟があった。定刻、後藤氏と柳平彬（さかん）グループダイナミックス研究所所長との対話が始まり、後藤氏と柳平彬の出会い、ここに至るまでの経緯、この施設のポリシー等が話され、前日は深夜まで後藤氏は「志楽の湯」の照明の位置について指導されたとのこと。また、後藤氏の著書「黒川温泉のドン 後藤哲也の『再生』の法則」（朝日新聞社刊）を頂いた。




次いで、レストラン試食会にうつり、後藤氏とテーブルが一緒になる幸運に恵まれ、30分ほどお話を伺った。後藤氏は訪れた人に「これは凄い」と言わせることのできる、建物・庭・風呂（温泉）、その造り方・見せ方等に豊かな経験を有する、稀有な環境プロデューサー、ディレクターであり、都会人の求める「癒し」の場を創造・提供できる技術者であるとの感を深くし、黒川に行く必要性を強く感じた。秋にも出掛けようと思っている。

日豪和解の道を探って

観光交流の拡大目指す豪教授

オーストラリア・サザンクロス大学の観光学科教授のディック・ブレスウエイトさんに、岡村副理事長、杉理事とともに会った。ディックさんは、6月29日に来日、7月9日まで日本国内を視察した。同じ大学の日本語講師であるマクラレン温子（たづこ）さんが同行した。

このインタビューは、同大学とJN協会の名誉会長だった今村昌平・映画監督が創設した「日本映画学校」が映画教育に関して提携、いまも4人の学生がサザンクロス大に留学している縁などから、実現した。映画監督の千葉茂樹夫人の好美さんに、お世話いただいた。感謝申し上げる。

同教授来日の目的は、太平洋戦争の戦犯として処刑された日本軍の将軍が持っていた日本刀を遺族に返還することにもあったようだが、具体的な内容は進行中とあって、聞けなかった。ただ、教授の専門である観光問題

 プレスウエイト教授
 に関して、いろいろ話をうかがったので、概略を紹介したい。

海外旅行者の3%弱しか日本に来ていない

オーストラリアは年間600万人が世界を旅行しているが、このうち日本には2.7%しか来ていない。空路たかだか7～8時間、時差も少ないし、夏冬が逆転しているという面白さもあるのに、である。

この点を聞くと、一つは日本の物価高にあることを挙げた。オーストラリアからはヨーロッパに行く人が圧倒的に多いが、その大半はシンガポール経由だという。シンガポールに2～3日滞在してから欧州に向かう。成田経由は、少ないそうだ。「実感として、シンガポール経由の3倍くらい費用がかかる」と同教授。それに、日本の地方には標識が整っていないことも、気になると指摘した。

まだ本当の意味で和解が出来ていない

もっと本質的な問題もある、という。オーストラリアは太平洋戦争で、日本軍に痛めつけられた。同教授の父親もボルネオで日本軍の捕虜となり、2000人のうち生き残った6人の1人だという。こうしたことについて、日本政府は十分な陳謝をしておらずオーストラリア人には、まだわだかまりが残っているそうだ。同教授の父親も、戦後こうしたことに関して「黙して語らず」の姿勢を貫いていたが、日本製品を買うことを一切拒否していた、という。それが戦後数十年経って、やっとニッサン車を購入したが、まもなくこの世を去った、という。

同教授は言う。「日豪両国ともに、お互いの国や人をよく知らない。もっと交流して和解の道を探らないと、観光にはつながらないでしょう」。

教授は、オーストラリア政府の戦争遺族会の代表

人であり日豪和解プロジェクトの責任者でもあるだけに、その言葉には重みがある。教授は、このたびの訪日で広島も訪れたが「原爆資料館をみて原爆の悲惨さは良くわかったが、あそこに日本軍が外地で行った残虐行為の一端でも展示していれば公平さを感じただろう」と、こっちの虚を突くような発言もあり、ドキッとした。

最後に、ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）にオーストラリアも対象になったことについて聞くと「知りませんでした」とのこと。たしかに、もっと日本を知ってもらおう努力をしないと、オーストラリアは「近くて遠い」国のままになってしまう恐れがある、と思った。（加納）



The report of Rikkyo ac-

外国人留学生らのツアーを実施

JN立教支部（田久保万里夫）

立教支部では今後観光と交流をテーマに各種活動を実施していく予定です。その活動の第一弾として7月9日に第1回外国人ツアーを実施しました。共に日本について学ぶことを通じて交流を深めていくことが目的です。当日は、イタリアや台湾の留学生が5名参加してくれて、秋葉原や銀座を案内しました。

秋葉系への第一歩か？！

秋葉原では、店内がキャラクターフィギュアで埋め尽くされている店や、『メイド喫茶』と呼ばれるメイドさんに扮した店員さんがサービスしてくれるといった、ちょっとマニアックなスポットを見て回りました。留学生はもちろん、我々立教学生もツアー企画者であることを忘れて夢中でフィギュアに見入っていました。また、万人が持つ空想や妄想の世界に癒しを求める欲求を、秋葉原が見事に体現しているからこそ、ここまで世界から注目される一大アニメ文化発祥の地になり得たのだということを実感することができました。同じ日本だというのに、ここまでカルチャーショックを受けるとは思ってもみませんでした。

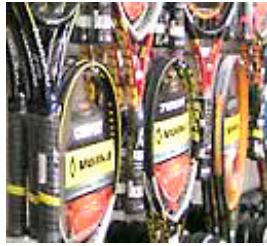
今後の活動に光明あり

銀座では、アップルショップやソニービルといった店を回り、ハイテク技術による最新の映像やオーディオ製品を見て回りました。ここでも今流行のiPodを視聴したり、新型のデジタルカメラを試用することを通して、東京の文化発信地としての役割を再認識することができました。

今回のツアーは、共に楽しみ交流を深めることが目的だったのですが、「機会があれば次もぜひ参加したい」などの感想をもらうことができ、第1回のツアーは成功裏に終わることができました。今後とも企画実践していきたいと思っています。

グリップ、打法、練習、そして試合(中) 基礎技術を習得してテニスを楽しむ

6月初旬、世界4大会のひとつ全仏テニスがパリのローランギャロス(レッドクー)で行われ、男子単はスペインのナダル、女子単はベルギーのエナンが優勝した。



6月下旬にはウィンブルドン(天然芝のコート)で全英オープンが開幕し、テレビ中継を楽しむ。「スポーツと観光立国」シリーズ・テニス編の2回目は、最も重要なラケットのグリップやグランド・ストローク、ボレー、サービスなどの基本的な打法、練習、そして試合運びについて紹介する。(事務局長 白澤照雄)

ラケットの握り方(グリップ)は、自分の腕、手首の強さや球を打つ位置を考えて決める。グリップはフォアかバックハンドか、によっても異なるが、基本的には「ウエスタン・グリップ」(厚い握り)、「イングリッシュ・グリップ」(薄い握り)、「イースタン・グリップ」がある。ウエスタンはラケットを地面に水平に置いた状態で、そのまま握る。イングリッシュはラケット面と地面が垂直になる形で握るので、すべてのショットを握り替えずに打てる。イースタンは2つの長所をとったグリップ。ラケットは、バックスイングまでは緩く握り、インパクトのとき力を入れて打ち、球の衝撃に耐えるようにする。相手のボールをどの高さで打つか。打球点は難しいが、「へその前で打つ」から始めよう。

「テニスは足ニス」といわれるほどフットワークが重要。グランド・ストロークとは1度地面に落ちた球を打ち返すことで、テニスの基本といえる。

プロのテニス界はサーブ・アンド・ボレー型のテ

ニスが多くなったが、ベースラインぎわからストローク、クロス将球を繰り出すストローク・プレーヤー(ベースライナー)とのスピード感、溢れる格闘技が面白い。フォアは利き腕側で打ち、バックハンドはその逆の打法で、初心者には難しいが、実践を重ねるとバックの方が楽に打てる。

ストロークの種類にはフラット(球の中心を打つ)、トップ・スピン(順回転)、バック・スピン(逆回転)、スライス(逆回転)がある。ほかにネットぎわから打つハイボレー、ボレー、ローボレーやロビング(高く上がる球)があり、こうした複雑多様な打球もテニスの魅力といえる。試合はダブルス、シングルスともにサービスとレシーブ・サイドを決めて始めるが、サーブにはフラット、スライス、スピンがある。フラットは高い打点から打ち、サービスエースを狙い、スライスはトスした球の右側を叩いて逆回転を与え、相手をサービスラインから外に追い出す。スピンは球の上部を上方へ回転させるサービスで、落下地点で大きく弾むためリターンが難しい。

私は高校時代にテニス部の主将をしたが、基本をおろそかにしたため今も無手勝流テニスで苦戦している。初心者はダブルスの基本を練習し、ゲームをやろう。大切なことは「上手な人と試合する」、「相手の癖や弱点を狙う」、「守りながら攻める」、「準備運動をして水分を十分取る」ように。次回は「テニスの効用編」。

大九州圏観光フォーラムに、ご参加を!

9月21日(水)午後2時から、福岡市の西鉄グランドホテルで。講師に、日本貿易振興機構(ジェトロ)の渡辺修理 専務(元通産事務次官)はじめエキスパートを迎え、官民一体となった観光振興策を探る。地震に見舞われた福岡であり、九大教授による「都市防災について」の講演も。

C O L U M N

多彩な発想

車を降りる前に走行距離と行き先をメモする習慣がある。とくに、距離にこだわるようになったのは、大げさに言えば地球の大きさを実感したいためである。メーターが40,000kmを超えるたびに、「あー地球を一周したのだ」と自分に言い聞かせ、ポルトガル大航海時代の船乗りたちの壮大な航路を想い感慨に耽る。シベリア鉄道で雪の中を全線(約9,300km)横断したときなども、自力でもないのに、自分は陸路地球を四分の一の一周したのだ、とひとり悦んでいた。

ところで農耕民族であるわれわれ日本人は、どうも普段の居場所を離れると、まったく距離感が持てないようだ。地元を離れると不安にもなる。せめて自分の住まいの半径500kmには、どんな都市、名所、観光地があるかぐらい地図で調べ、日頃から距離感を意識しておいた方がよい。目からウロコが落ちること必定である。古来日本人は家から離れず、宿替えしたり、旅することさえ珍しかった。地球規模で物事を考える習慣もまれだ。これが日本人には、多彩で感性溢れる個性的な発想が生れない、遠因のひとつになっている。

アマゾン川と密林を抱えるブラジル人が、ブラジルは世界の真水の1/5を産出し、地球上の全酸素の1/3を供給していると自慢したり、メキシコでは薄暗い教室で、教師が室内は暗くても生徒は毎日トウモロコシを食べているから目は悪くならないなどと言いつけるのは、ことの真偽は別にして、感覚的に身近に感じる臨場感と現実が日常生活の土台にあるからである。

日常生活の中でももっと悠々な宇宙の原理、自然の摂理、未知への探究心等を意識するようになれば、多彩な生活慣習も生れ、生活自体にメリハリがついて一層愉しく、バラエティに富んだ話題やユニークな発想が生れてくる。それには普段からもっと万物に関心を抱き、身近な自然に触れる習慣をつけることが大切だ。(近藤)

暮らしと観光

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

ビールだけじゃないよ、
ワインも、どうぞ！

ドイツと聞けばビール、と言う人が多いだろうが、どっこいワインも素晴らしい。フランス、イタリアのかげに隠れた形になっているが、ドイツワインのファンも多い。筆者も、40数年前訪れたアルトハイデルベルクの古城で飲んだドイツワインの美味しさに魅せられた一人。

リースリングとかモーゼルとか、ドイツワインに関する言葉を聞いた人も、多いことだろう。

とくに「白」は、甘口で爽やかな香りがあり、初めての人も飲みやすい。もちろん、辛口のワインや赤もある。白ワインは、舌平目のムニエルなど、魚料理にピッタリ合う。

世界のワイン産地は、地中海気候に恵まれた地方に点在する。フランス、イタリアのほかにカリフォルニア、南ア、チリ、スペイン、ポルトガルそしてオーストラリアなどが、そうだ。

ドイツは、こうした地域と違って緯度の高い寒冷地にあるが、ライン河沿いの南側は大西洋の暖流と日照に恵まれて、ブドウ生産が可能なのである。

今年はドイツ年でもある。5月24日のJN協会総会では、ドイツワイン基金駐日代表部から寄贈されたワインを参会者は、大いに楽しんだ。(加納)

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年に創刊され、ホテルオークラ、帝国ホテルなど全国のシティホテル110館約50,000室の客室に常備されている日米対訳の文化情報誌です。

2005年度版は編集・デザインを大幅に刷新。表紙は気鋭の合羽刷(版画)師、西岡文彦氏による作品としました。英文も基本的に全文対訳とし、学校教材としてもより利用しやすくなっています。



特集では、世界遺産に登録された「熊野三山」に焦点を当て、歴史・風土・文化、そして現在の姿を、豊富な写真を中心に紹介しています。

さらに、木村尚三郎氏による巻頭メッセージ、金子務、鎌田東両氏による特集エッセイは、これまで以上に読みごたえのある記事となっています。

1部2,000円(送料別)で購入できます。

お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。

電話03-3465-5826 FAX03-3465-5254

お得な旅情報

島根の夏まつり「神楽」

夏本番を迎えて、玉造温泉では島根の二大郷土芸能「石見神楽&安来節・ドジョウすくい踊り」の競演がある。会場は玉造温泉ゆ〜ゆ。7月20日~8月31日まで(8/13~15・21は休演)夜8時30分から、島根の代表民謡「安来節」にあわせてユニークな「ドジョウすくい踊り」と勇壮華麗で迫力満点な舞「石見神楽」が上演される。



入場料は大人800円(小学生以下無料)島根県には「出雲神楽」「壱岐神楽」「石見神楽」の3つのタイプの神楽がある。

「石見神楽」は物語スタイルになっておりショーアップされているので、より多くの人々を楽しませてくれる。33演目あるうち「八岐のおろち(やまたのおろち)」は、須佐男之命が八岐の大蛇と勇壮な戦いを展開する迫力で一番の人気。

会場では、豪華な衣装の神楽が每晚堪能できる。夏祭り問合わせ：

玉造温泉観光協会・電話0852-62-9109

道の駅「ゆうひパーク浜田」

島根県浜田市の国道9号浜田道路沿いにある、道の駅「ゆうひパーク浜田」は国道9号屈指の夕日スポット。山陰有数の漁港、浜田港で水揚げされた海産物・加工品を販売するコーナー、石見地方の特産品がそろっている。ユニークなのは「こりとり庵」。全国の道の駅では初めての癒しスポットで、マッサージが体験できる。おすすめは、「温水圧マッサージ機」。カプセル型マシンの上からでる水の圧力で全身をマッサージ。防水シートがあるので、服を着たままでも全く濡れない。長時間のドライブの疲れを取る強い味方である。また、島根の郷土芸能「石見神楽」の定期公演を開催、30種類もの神楽を見ることが出来る。公演は、毎月第2・4日曜日、14時~16時。問合わせ：電話0855-23-8000 (堤 りり)

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階
JAPAN NOW観光情報協会(電話03-5304-9500)へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

観光情報紙2005年09月号(大九州圏観光フォーラム特集号)への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。「観光立国への提言」など皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。発行は09月20日となりますので、原稿締め切りは、09月05日。

NPOから提案します

ジャパンナウ観光情報協会への期待 その21 「観光と税金(2)」

JN協会理事 寺前秀一

日本を代表する観光地は京都市です。日本を代表する社寺仏閣は京都市に所在します。社寺仏閣は宗教施設ですから固定資産税は課税されません。固定資産税は市町村の重要財源ですから、社寺仏閣の多い市町村は財政基盤が弱いといえます。現に京都市は昭和30年財政再建団体に陥りました。そのためか当時京都市は拝観料に着目し観光施設税を検討しました。当然仏教界とは相当激しい論争が起きました。最終的には信仰の対象となる社寺仏閣は単なる観光ではないということで、文化観光施設税と名称が変えられ昭和39年まで実施されました。その後名称は観光の字句が削除され文化保護特別税として44年まで実施されました。更にその後の昭和60年に古都保存協力税として復活させる際には紛争は収まらず京都仏教会の分裂にまでいたりしました。

奈良県では東大寺の拝観料に文化観光税を課税しました。その際に奈良市とどちらが課税主体になるかで論争が発生し、更には東大寺も条例の執行停止を求めて訴訟に発展しました。日光市でも同様の紛争が発生しました。市が二社一寺に文化観光施設税への協力依頼したところ、社寺側は長年にわたって放置したうえに、一方的に献饌料値上げを全国旅行者業者に公表しました。このため市議会は氏子及び信徒である市民の意志を無視した行為として文化観光施設税条例を議決することとなりました。

宗教と観光は実態としては密接不可分であることがこれらの騒動からもわかります。平泉町や松島町

も拝観料課税である文化観光施設税を実施しましたが、比較的うまくいったほうです。近年の例では、太宰府市が歴史と文化の環境税を作りました。歴史と文化の環境税とはいうものの、駐車場税であり、有料駐車場利用者に課するものでありました。最大駐車場業者である天満宮がその態度を二転三転させたことから混乱に陥りましたが、現在のところ実施されているようです。

北部九州に観光スポットが続々誕生

9月21日の「大九州圏観光フォーラム2005」に合わせるかのように、九州では新しく数多くの観光スポットが誕生する。

9月9日から11月20日まで「アイランド花どんたく」(第22回全国都市緑化フェア)が、開催される。ここでの目玉は、サントリーが開発した『青いバラ』(ブルーローズ=写真)で、

愛好家の話題を呼びそう。

このほか、幻のハタユリなど1000種、150万株の花が会場を彩る。

9月16日から25日までは「アジアフォーカス・福岡映画祭2005」が、10月6日か

ら10日には「アジア太平洋フェスティバル」と、アジアの玄関口・福岡ならではの行事も。さらに11月17日までは「第3回福岡アジア美術トリエンナーレ2005」など盛り沢山の行事がある。

10月16日には東京、京都、奈良に次ぐ「九州国立博物館」が大宰府にオープン。大宰府天満宮から動く歩道で接続される。

少し離れるが、レトロ調で人気を集めている門司港に、さらに新しい観光スポットもオープン。



イタリア観光通信 その23 ~ お菓子 ~

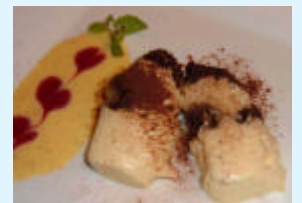
イタリアのお菓子は、木の実やフルーツを使ったものやチョコレート、生クリームやチーズを使ったものなど材料も豊富。焼いたり揚げたり、また冷やしたりレシピもバリエーションに富んでいます。暑い夏、シチリア地方では、ジェラート(アイスクリーム)をプリオッシュにはさんだりと、食べ方もいろいろです。

イタリアでは、大人も子供も、女性だけでなく男性も甘いものが大好きなようです。オフィス街の昼休みに、ネクタイをしたビジネスマンが列をなして、歩きながらジェラートを食べている姿を、よく見かけます。また、お酒と甘いものの組み合わせも、イタリアでは食後の楽しみのひとつ。中部イタリアでは、カントウッチ(硬く焼いたビスケット)をヴィン・サント(甘味のある少し強い白ワイン)に浸して食べます。ナポリのお菓子「ババ」などは、一口スポンジケーキシロップ漬けですが、けっこうラム酒がきいていますから、お酒に弱い方はち

よっとびっくりするかもしれません。そもそも食後のデザートにはコーヒーや紅茶ではなく、甘いデザートワイン等をあわせませす。エスプレッソはそのあとであらためてお口直しに。

さて、日本でもおなじみのイタリアのお菓子といえば、ティラミスでしょうか。このティラミス、直訳すると「私を上を引っぱって」、転じて「私を元気にして!」という

意味。エスプレッソ・コーヒーに浸したビスケットと、泡立てたマスカルポーネ・チーズと卵黄のクリームを重ねたいかにも元気になりそうな栄養満点のデザート。お菓子やさんではあまり売られていませんが、レストランではポピュラーなメニューです。旅の疲れがでるころ、少し元気を取り戻したいときは、気持ちこめて「ティーラミ・スー」と少し語尾を強めてイタリア風に注文すれば、翌日からまた楽しい旅が始まること、まちがいなしです。JN会員 満田潤子



『海の日』に想う

松尾道彦 (JN協会理事長)

今年もまた『海の日』が巡ってきました。

第一回「海の記念日」は、昭和16年7月20日からスタートしました。「7月20日」という日は、明治天皇が明治9年東北ご巡幸の帰途、灯台視察船「明治丸」で青森から函館を経て横浜港に安着された日に由来しています。今年は第一回から通算して65回目の『海の日』です。

この日を祝日化しようと海事関係者を中心にして運動が繰り返して展開されました。本格的には第三回目の運動となる平成3年に「国民の祝日『海の日』制定推進会議（後に国民会議に改称）」が発足してからです。平成6年には1000万人を超える署名が集められ、また全国地方議会の3分の2を超える2281の議会において意見書が採択されました。このような運動の高まりの中で、平成6年12



月に国会に提出された「国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律案」が翌年に可決成立、8年1月1日施行されたのです。この年7月20日に初めて国民の祝日（海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日）となりました。

この運動の背景の中で、どうしても忘れてはならないことがあります。平成7年1月17日未明に神戸を襲った都市直下型大地震「阪神淡路大地震」。このような大震災が発生した以上、祝日化運動でもなかりと反対ムードが高まっていました。その時、内航総連の故佐藤国吉会長（神戸在住）が、今だからこそ海洋国日本の繁栄を考えて『海の日』を祝日とすべき、と情熱を傾け説き回され、実現されることになったのです。

その後、ハッピー・マンデー運動の中で祝日法が改正され、『海の日』は7月第3月曜日となり、平成15年から3連休化が実施されることになりました。その第一回海フェスタが神戸で行われ、昨年は福岡で、第3回目の今年は7月18日沖縄で実施されました。

（ちなみに筆者は、現在「日本海事財団」会長）

会員名簿

（敬称略）個人会員は別刷りご参照

- 理事長** : 松尾道彦 (日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁)
顧問 : 丹羽晟 (前理事長、日本空港ビルデング相談役)
副理事長 : 白澤照雄 (JN協会事務局長)、岡村進 (小田急電鉄顧問)、橋元雅司 (元国鉄副総裁)
 橋爪孝之 (株)JALUX相談役、大島慎子 (ドイツワイン基金駐日代表)、小竹直隆 (元JTB専務)
 須田寛 (東海旅客鉄道相談役)
支部長 : 片山文彦 (新宿支部)、水野卓哉 (北陸支部)、田久保万里夫 (立教支部)、長尾亜夫 (九州支部)、
 須田寛 (中部支部)、岩田弘三 (神戸支部)

団体会員】(2005年7月20日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、(株)伊勢丹、(株)エスシー・マシーナリ、(株)大林組、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、五箇村 (島根県・隠岐の島)、国光施設工業(株)、佐川サポートサービス(株)、三協アルミニウム工業(株)、(株)三普旅行社、清水建設(株)、(株)ジャルセールス、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、(株)ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研(株)新菱冷熱工業(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、総合パーキング建設(株)第一交通産業(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)、大成コーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中部電力(株)、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、ネスレジャパングループ、箱根町 (神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)ビッグウイング、福岡空港ビルディング(株)、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、ホテルマリックス、マイナミホールディングス株、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)ミルックス、(学)森谷学園、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人 (NPO)

人と自然・観光の未来を創る、JN協会です！

JAPAN NOW

観光情報協会

東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：白澤照雄 (JN協会事務局長)

編集長：加納 隆 (JN協会理事長)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

「帯に短し、襷に長し」という。初めて10ページの情報紙を作ったが、手間がかかること、この上ない。新聞が原則4ページの倍数で製作される理由も、そこにある。はじめ8ページを予定していたのが、寄稿が増え、全て収録するという編集方針から、そうなった。嬉しい悲鳴だが、やはり諺とは言いえて妙だな、と痛感した。立教の諸君のカムバックは嬉しい限り。ぜひ続けて一ページをつくってもらいたい。一方で、常連執筆者だった満田さんの「イタリア観光通信」が今回で休載になるのは、寂しい限り。再開を期待したい。(加納)